

群 教 セ	G15 - 01
	令3. 277集
	高-キャリア

# 令和3年度長期社会体験研修報告書

## 研修先：システム・アルファ株式会社

長期社会体験研修員 寺崎 絵美

### I 研修内容

#### 1 研修先の概要

システム・アルファ株式会社は、1981年に群馬県前橋市で創業した、システムインテグレーション事業とモバイル事業を主軸とする企業である。システムインテグレーション事業では、情報技術が進化する中、様々な業種の顧客に対し、付加価値の高いシステムの提供を行っている。基幹業務システム導入、ネットワーク構築、ソフトウェア受託開発、そして高品質な保守サービスの提供など、取引先と共創しながら顧客の課題解決を目指している。また、県立学校のネットワーク管理やPC教室の機器配備など、教育市場における業務もこの事業で手掛けている。モバイル事業はショップ運営と法人営業があり、ショップ運営では一人一人のお客様に「お得や便利」「楽しさや驚き」「満足や安心」といった体験や感動を提供するとともに、地域の企業や各種団体と協業し、社会課題解決や地方創生など新しい価値の実現を目指している。法人営業ではICT事業と連携し、企業だけでなく地域の課題解決にも寄与できるビジネスを目指している。

#### 2 研修先での主な研修内容

##### (1) 新入社員研修【4月1日～4月20日】（研修場所：システム・アルファ本社）

システム・アルファの企業理念、社内システム、各事業部や部署の概要などを新入社員と共に学んだ。また、社会人としてのマナー研修やチームビルディング研修に参加した。研修のまとめとなる成果発表ではチームを組んで発表を目指す新入社員に対するフォロー役・アドバイザーとして参加した。

##### (2) 第1ソリューション部での研修【4月～3月】（研修場所：システム・アルファ本社）

公共・教育部門を担当するネットワークグループにて研修を行った。教育DX推進コーディネーター（群馬県教育委員会の委託事業）の勤務管理、業務報告の書式作成及び運用支援、情報共有支援や参考資料の集約を行った。また、情報集約から見えた課題を解決するために、ワンポイント動画の作成や総合教育センター長期研修員との交流・連携を計画し、実行した。

##### (3) 県立学校ICTヘルプデスクでの研修【4月～3月】（研修場所：システム・アルファ本社）

年度当初においては教職員や生徒のアカウント登録補助、問い合わせ内容の分析補助を行った。また、問い合わせの多い事例や災害時対応などについて解説動画を作成した。10月以降は、県立学校ICTヘルプデスクでの受付対応についても研修を受け、アカウントのリセット対応や故障受付の補助を行った。

##### (4) 新規プロジェクトでの研修【10月～3月】（研修場所：システム・アルファ本社）

40周年記念事業として立ち上がった三つの新規プロジェクトに参加した。全社的な取組であり、部署をまたいだプロジェクトメンバーと協力し、実現に向けて取り組んだ。いずれも教育に関わるプロジェクトであり、教員としての立場から学校現場についての情報提供や、打合せ内容における内容解釈の統一を図るための支援を行った。

#### 3 キャリア教育実践

##### (1) キャリア教育資料について

テーマを「学校生活の中で『課題対応能力』を伸ばそう」とし、高校生を対象としたリーフレットを作成した。研修を通して、業務のほとんどの場面において課題解決への対応姿勢が求められて

いると感じ、これを学校生活で育むことが必要であると考えたためである。課題への具体的な対応を紹介し、学校生活にある様々な事柄を課題として意識し対応していこうと読者に呼びかける内容にした。また、課題への対応例を企業と学校生活とで提示し、それぞれの具体的な取組と、課題対応能力の具体的な要素の対応について示した。

## (2) 実践の概要（県立安中総合学園高等学校）

### 授業実践

題材名 「振り返りの力」（特別活動）

対象 第3学年3・4組 72名

企業での研修から、物事に対する振り返りが業務遂行のためには重要であると感じた。そこで振り返りの大切さを捉えるための授業を計画した。授業では、架空の文化祭におけるトラブル対応と実際の学校生活で計画的に学習を進めるためにどうすればよいか、という2種類の課題を用意した。それぞれの課題に対し個人で考え、グループで話し合い、結論を出すという流れで課題に対する振り返りを行った。さらに授業の最後で自身の考え方の変化についても考察する流れとした。二つの課題を通じて、生徒は自らの考えを出発点とし、他者との意見交換を通して、新しい見方・考え方を得ることができたと感想を述べていた。これにより課題対応能力の具体的な要素のうち、課題発見・情報収集・原因の追究の3点について考えさせることができた。

## II 研修成果

### 1 第1ソリューション部・県立学校 ICT ヘルプデスクでの研修について

企業の社員という立場で、教育現場の一端を見ることができた貴重な研修だった。特に教育 DX 推進コーディネーターの支援業務では、学校現場の経験が浅いコーディネーターが学校現場を少しずつ理解していき、その理解を起点にして課題解決していく様子をつぶさに見ることができた。この経験は教員としての自分を客観的に見つめ直す機会にもなった。今後は様々な教育の取組が進められる中で、保護者・地域の方・他業種の方などと協働することが増えていくと思われる。そのための手掛かりになったと思う。まずは自らの取組を開示し、相互理解の起点にできるよう努めていきたい。

### 2 キャリア教育について

キャリア教育を推進するために意識していくべきだと考えたことは次の点である。それは生徒に対して学校生活のあらゆることを自分の課題として捉え対応しようとする態度が、社会人として求められる姿につながると伝えていくことである。学校生活が社会に向けて連続性のあるものであるということは、教員である私たちが伝えていかなければ、生徒が理解することはない。そのためにも、私たちもまた社会人としてキャリアを積み重ねていることを意識しなければいけないと考える。そして、キャリア教育で目指す資質・能力を伸ばしていくという点では、他の教育活動と同様に学校全体で取り組むことがとても重要だと考える。学校生活の諸活動を取り組むべき課題として捉え、解決に向けて対応していく流れを作るためにも、学校全体でのカリキュラム検討や教職員同士の考えの可視化を推進していきたい。

## III まとめ

研修を通じて、学校生活で課題対応能力を育む必要性を強く感じるすることができた。また、課題を発見し解決するまでの流れは、日々の振り返りにより形成されていくことも実感することができた。そして ICT を活用することにより、協働的に課題に対応する力を高められると考えられるようになった。これらのことを今後、教科の指導計画、学級運営計画などに取り入れ、あらゆる教育活動に対し、教職員一丸となって取り組めるよう本研修の学びを基に行動していきたい。

（担当指導主事 大野 友朗）